

質問通告・質問要旨一覧表

議会傍聴者用

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
1	狩野正雄	◎ ゼロカーボンシティの進捗状況は 令和3年3月議会で喜井町長が鹿追町ゼロカーボンシティ宣言を行った。 この宣言のきっかけは、菅元首相が表明した国家プロジェクトであるが、国のトップが代わってもこの事業は間違いなく実施されるのか。 脱炭素事業により、町民ホールや神田日勝記念美術館などの公共施設の改修を実施するが、事業の推進には多額の予算が必要である。 この事業の全体像、現在までの進捗状況、今後の具体的計画の内容について質問する。 1 鹿追型ゼロカーボン事業脱炭素先行地域は、民間のノウハウを生かした提案（プロポーザル）で行うとしているが、提案期限までに応募事業者はあったのか。 2 瓜幕自営線ネットワーク（マイクログリッド）を構築することで、多様なエネルギーの活用が可能になるとしているが、経済性、環境性は。 3 工事に伴い施設を休館すると聞くが、完成までの大まかなスケジュールは。
2	佐々木康人	◎ 「シカソン」の取り組みについて 地域課題や環境をテーマとしてマラソンのように継続的に、訪れた人と町が一緒になって考えていく「シカソン」の取り組みが、昨年地方創生賞として評価された。関係人口の増加、移住者や企業進出を促す取り組みとして、企業との連携協定や地域活性化企業人の招致などの一定の成果も出てきていると聞く。 昨年11月には、シカソンのセミナーが教育関係の視察、町内キーマンとのセッション、本音トークなどが実施され、「町内飲食店のネットでの情報発信の充実」、「町全体のキーワードが必要」等の提案がされた。 シカソンはまず「鹿追町を知ってもらう」というコンセプトのもと行われたが、今後、課題解決型ワーケーションとして、鹿追の知名度を上げつつどう事業展開していくのか、いただいた提案について町としてどう対応していくのかを伺う。

質問順	質問議員	通告の標題・質問要旨
3	山口優子	◎ 地域コミュニティの拠点・ピュアモルトクラブハウスの活性化について 今年4月から鹿追高校の寮に入る40名の生徒がおり、高校寮から近いピュアモルトクラブハウスを憩いの場として利用するニーズは非常に高まると考えられる。若者たちが安心して集まり、交流できる場を整備することは、若者の定住促進や地域の活性化にも大きく寄与する。 地域コミュニティの拠点としてのピュアモルトクラブハウスの活用状況についてはどのように考えているか。現在の利用率や課題について、どのように認識されているか。また、特に若者がより利用しやすい環境づくりや、新たなコミュニティスペースの整備についての考えを伺う。 1 若者が利用しやすい環境づくり ピュアモルトクラブハウスで利用時に入館者名簿の記入を続ける理由は。また、スタッフや来館者の気配をより感じられるように、事務所の壁を腰高の壁に変更することを提案する。 2 新たなコミュニティスペースの提案 若者が地域活動に関わる機会を増やすために、ピュアモルトクラブハウスのカフェスペースを町民に無料で貸し出し、カフェを開設することで、若者が集まりやすい環境を作ることが有効だと考える。
4	黒井敦志	◎ 職員育成の考え方や方針について 地域課題解決のために企業と連携する「シカソン」が表彰された。このタイミングで職員の資質向上のための研修を組織的かつ体系的に構築するのはいかがか。特に「鹿追町まちづくり基本条例」を意識した研修が重要と考える。 鹿追町まちづくり基本条例には、町民の参加と協働のまちづくりとある。気遣い、思いやりのある行動を職員に浸透させる必要があると考える。 また、同条例の第2章には情報共有の推進（情報を知る権利）が定められ、速やかに情報を提供できるよう整理、保存し、適正な管理をすることとしている。あらためてデジタルアーカイブ整理を進め、財産として残すべきである。 職員に条例の主旨が十分に浸透するために、まちづくり基本条例を柱とした体系的に充実した人材育成が重要と考える。 町長の所見を伺う。